



名古屋から鳥取へ

2023年夏の自転車疾走号

# 五感を満たす 夏の鳥取サイクリング考

鳥取県では、自転車を活用した観光「サイクルツーリズム」の振興に早くから力を入れています。県内各域でサイクリングルートの整備が進み、空気入れやパンク修理工具の貸し出しを行うカフェなどのサポート施設も充実。今回は、鳥取県西部の風景に溶け込むように自転車を走らせる、少しだけアクティブな夏の提案です。

企画制作／中日新聞広告局

## 自転車を持って列車で移動

鳥取県がサイクリングルートへの整備を検討し始めたのは、「サイクルツーリズム」という言葉が定着するよりも前の2010年のこと。秀峰・大山（だいせん）や雄大な日本海が近接する、景観に優れた県西部周辺を自転車で乗って楽しめるよう周遊ルートを提示し、サイクリングの聖地となることを目指したのが始まりでした。この動きは県の広い範囲に浸透し、現在県の公式サイトで紹介するサイクリングルートの数は17に上っています。

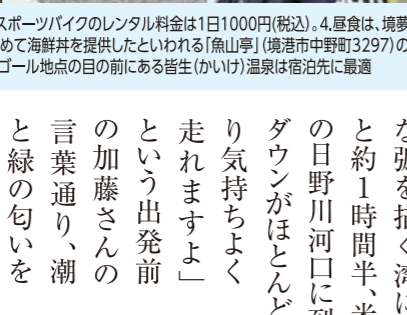
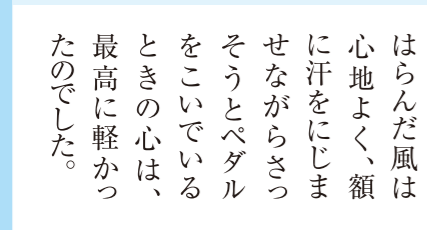
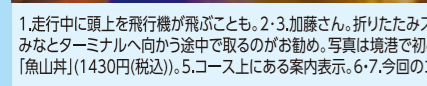
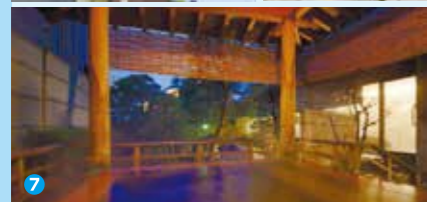
そんな鳥取のサイクリングルートを実際に走ってみようと、県西部を訪れました。選んだルートは、境港（さかいみなと）市と米子市をまたぐ片道15.8kmの「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース」。今回はJR駅レンタカー米子駅営業所で自転車をレンタルし、列車で境港へ向かいます。利用した「弓ヶ浜レンタサイクル」は、米子駅と境港駅を結ぶJR境線に、折りたたみスポーツバイクを専用バッグに入れて乗車できる、観光客に人気のサービスです。この日のアテンドを引き受けてくれた鳥取県西部総合事務所西部観光工課の加藤高志さんと米子駅で落ち合い、自転車入りのバッグを

持つて車両の中へ。自転車と一緒に列車移動している現実、初級者にもひとかどのサイクリスト気分を味わわせてくれます。

「鳥取県は、自転車を置くバイクラックやパンク修理の工具などを貸し出してくれる休憩施設の他、レンタサイクルの拠点施設ユグステーションも充実しています。加藤さんが『ダイジョウブシステム』として県内全域に広がっています」と話すように支障体制は、このコース沿いにも。レザードールやレザアーニマルなど、レザアー専門の「本池美術館」に立ち寄ったところ、隣接するカフェの軒先に「サイクルカフェ」の看板が掲げられていました。

境港駅を降り、まずは境港側のルートの起点「境夢みなとターミナル」を目指します。漫画家・水木しげるさんの出身地として知られる境港の町を抜け、スタート地点に到着。海向こうに大山を望み見ながら、文字通り白い砂浜と青い松林が続く専用道を走っていると、轟音とともに飛行機が頭上を横切っていくきました。「米子鬼太郎空港に向かう、着陸目の飛行機です」と、加藤さん。「頭

走れますよ」という出発前の言葉通り、潮と緑の匂いは心地よく、額に汗をにじませながらさっそうとペダルをこいでいるときの心は、最高に軽かったです。



1.走行中に頭上を飛行機が飛ぶことも。2・3.加藤さん。折りたたみスポーツバイクのレンタル料金は1日1000円(税込)。4.昼食は、境夢みなとターミナルへ向かう途中で取るのがお勧め。写真は境港で初めて海鮮丼を提供したといわれる「魚山亭」(境港市中野町3297)の「魚山丼」(1430円(税込))。5.コース上にある案内表示。6・7.今回のゴール地点の目の前にある皆生(かいげ)温泉は宿泊先に最適

お問い合わせ 鳥取県名古屋代表部

名古屋市中区栄4・16・36 久屋中日ビル5階

TEL:052-262-5411

https://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/

